

整形外科 Knack & Pitfalls シリーズ
小児整形外科の要点と盲点(1刷,2刷) 【正誤表】

本書におきまして、下記のとおり記載内容に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

● p81 大腿骨骨折③手術療法「1. 創外固定法 (2) 手技上の注意点」中、下線部の箇所
 (右段3行目) [誤] 10~20°以内でよく、 [正] 10°以内でよく、
 (右段12行目) [誤] 直径5mmのハーフピン・・・ [正] 直径5~6mmのハーフピン・・・

● p244 先天性内反足①診断と治療方針「1. 先天性内反足の変形」中、下線部の箇所
 (本文4行目) [誤] これらに変形に伴い [正] これらの変形に伴い

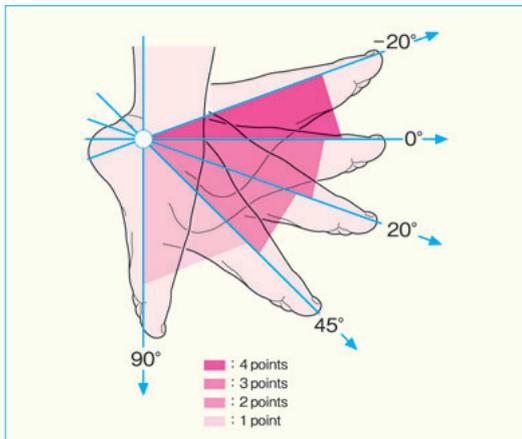
● p245 先天性内反足①診断と治療方針「5. 診断 (1) 重症度の判定」中、下線部の箇所
 (4~5行目) [誤] この方法では矢状面における尖足変形と内反変形、・・・
 [正] この方法では矢状面における尖足変形と冠状面における内反変形、・・・

(8~12行目) [誤] 足部内側の皮溝、踵部の近位の皮溝、凹足変形、筋肉の状態不良の有無を判定し、20点満点とする。15点以上を1度(軽度の変形)、10~15点未満を2度(中等度の変形)、5~10点未満を3度(重度の変形)、5点未満を4度(最重度の変形)と分類する(表1)。

[正] 内側の皮溝、後方の皮溝、凹足変形、筋肉の状態不良の有無を判定し、20点満点とする。5点未満を1度(軽度の変形)、5~10点未満を2度(中等度の変形)、10~15点未満を3度(重度の変形)、15点以上を4度(最重度の変形)と分類する(表1)。

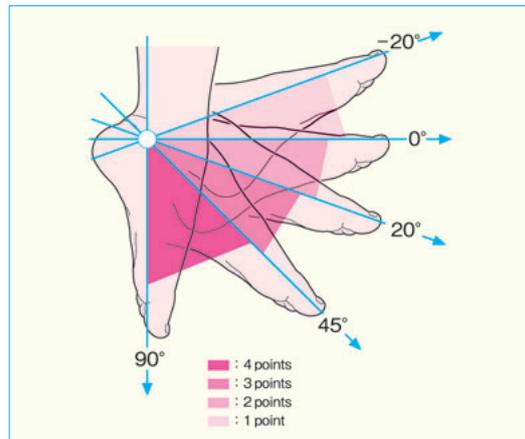
● p246 図 3b

[誤]



b

[正]



b

● p246 図 3 Dimeglio らによる変形評価

[誤] a 矢状面における内反変形の評価

[正] a 冠状面における内反変形の評価

● p246 表 1

[誤]

[表 1] 変形評価による重症度 (Dimeglio ら⁷⁾)

特徴	ポイント
内反変形	
90 ~ 45°	4
90 ~ 20°	3
90 ~ 0°	2
90 ~ -20°	1
その他	
足部内足の皮溝	1
踵部の近位の皮溝	1
凹足変形	1
筋肉の状態不良	1

点数 (20点満点)

- 1度(軽度の変形) 15点以上
- 2度(中等度の変形) 10~15点未満
- 3度(重度の変形) 5~10点未満
- 4度(最重度の変形) 5点未満

[正]

[表 1] 変形評価による重症度 (Dimeglio ら⁷⁾)

特徴	ポイント
矯正できる変形の角度範囲	
90 ~ 45°	4
45 ~ 20°	3
20 ~ 0°	2
0 ~ -20°	1
その他	
内側の皮溝	1
後方の皮溝	1
凹足変形	1
筋肉の状態不良	1

点数 (20点満点)

- 1度(軽度の変形) 5点未満
- 2度(中等度の変形) 5~10点未満
- 3度(重度の変形) 10~15点未満
- 4度(最重度の変形) 15点以上

● p247 右段下 図5 徒手矯正

[誤] 内転変形の矯正は距骨骨頭の外側に術者の母趾で圧迫し、

[正] 内転変形の矯正は距骨骨頭の外側に術者の母指で圧迫し、

● p267 外反扁平足 ①診断と治療方針 (1) 保存療法 本文上から 12 行目

[誤] 足骨角が -15° 以下

[正] 足骨角が 15° 以上

図10

[誤]

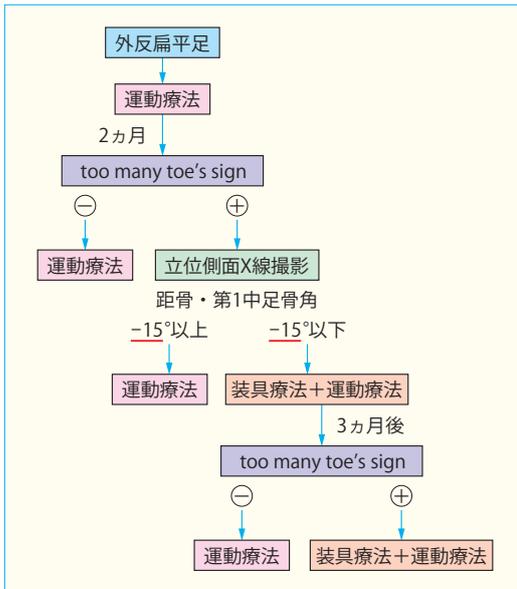


図 10 治療方針フローチャート

[正]

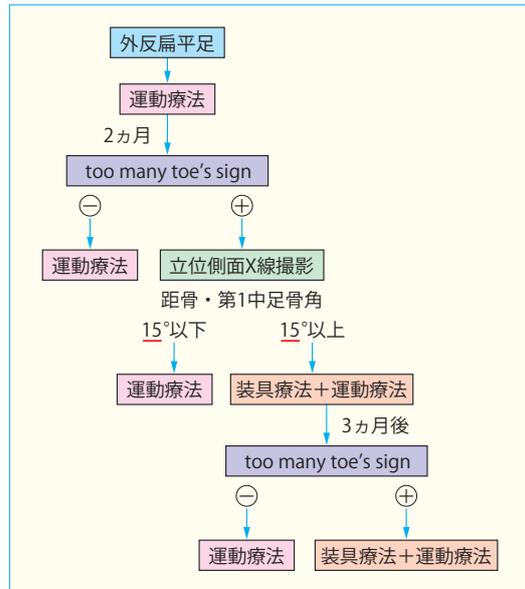
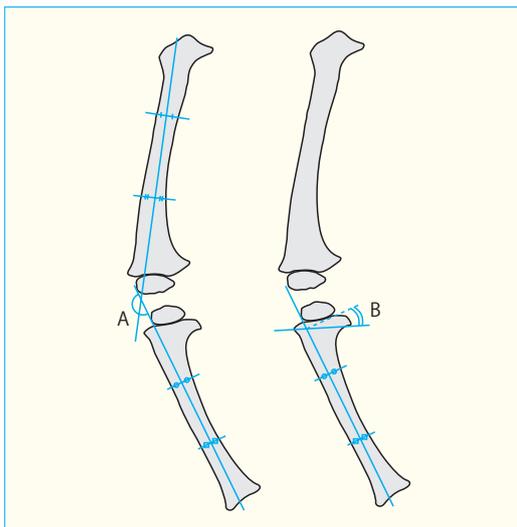


図 10 治療方針フローチャート

● p179 O脚 ①診断と治療方針 図5

[誤]



[正]

